

The 9th Annual Meeting of Japan Society of Human Growth and Development

日本発育発達学会

第9回大会



抄録集

アクティヴ・ライフによる子どもの育成



会期 ■ 2011年 3月12日(土)・13日(日)

会場 ■ 早稲田大学早稲田キャンパス

大会長 ■ 鳥居 俊 早稲田大学スポーツ科学学術院

事務局 ■ 日本発育発達学会第9回大会事務局

後援 ■ 文部科学省

共催 ■ 早稲田大学スポーツ科学学術院

日本発育発達学会 第9回大会 登録用紙

下記にご記入の上、参加受付にご提出ください。

ご所属

ご氏名

事前登録 あり → 参加受付にご提出ください。
 なし → 下記をご記入の上、参加受付にご提出ください。

参加区分 正会員 8,000円
 非会員 9,000円
 学 生 5,000円

住所(勤務先・自宅)

電話番号

Email アドレス

日本発育発達学会 第9回大会 懇親会 登録用紙

懇 親 会 参加する 参加しない

事前登録 あり なし(3,000円)

日本発育発達学会第9回大会

プログラム・抄録集

会期 ■ 2011年3月12日(土)・13日(日)

会場 ■ 早稲田大学早稲田キャンパス8号館

会長 ■ 鳥居 俊(早稲田大学スポーツ科学学術院)

日本発育発達学会第9回大会事務局

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15
早稲田大学スポーツ科学学術院 鳥居俊研究室
Tel&Fax : 04-2947-6746

E-mail : hatsuhatsu9th@gmail.com

HP : <http://hatsuiku.gakkai-web.jp/>

INDEX

会長挨拶	3
運営委員会	5
交通のご案内	6
会場案内図	7
タイムスケジュール	8
学会参加者へのお知らせ	10
ご発表の先生方へ	11
座長の先生方へ	12
プログラム	13

抄 録

基調講演	29
キーノートレクチャー	30
ランチョンセミナー	32
シンポジウム	36
口頭発表	47
ポスター発表	73

日本発育発達学会会則	102
日本発育発達学会 役員一覧	104
協賛企業一覧	105

日本発育発達学会第9回大会を開催するにあたり

来たる2011年3月12、13日の両日、早稲田大学において日本発育発達学会第9回大会を開催することになりました。

日本発育発達学会は、多くの会員の皆様の活発な参会により回を重ねてきました。その間、日本の子どもたちの状況は必ずしも望ましい方向に変化しているとは言い切れない現状です。そこで、第9回の大会を開催させていただくにあたり、メインテーマを「アクティヴ・ライフによる子どもの育成」といたしました。日本体育学会の発育発達分科会から発展した本学会は、子どもたちの身体活動を通して発育発達を見つめてきたことは今さら言うまでもありません。しかし、子どもたちの生きる現代は身体活動を行いやすい環境ではなく、その結果として体力低下、肥満の増加、骨折の頻発などの身体の問題やQOL、自尊感情が低いという心の問題も指摘されるようになったと考えられています。こうした問題を改善するためには活動的な生活を子どもたちに保障していくことが必要ではないでしょうか。このような思いでメインテーマとさせていただきます。

事務局として準備を担当しております私たちのスポーツ科学学術院ではGCOEプロジェクトとして「アクティヴ・ライフの創出」というテーマでの研究活動が進められております。第9回大会はこの研究活動の成果の紹介も含めて、シンポジウム、ランチョンセミナー、キーノートレクチャーなどの企画を計画しております。また、12日の午前には昨年度から始まった幼少年体育指導士の資格を取得された方々に参集していただくコーナーを設定し、今後の発展に向けて活動報告やご意見をいただく機会にしたいと考えております。

多くの先生方のご指導やご意見をいただき皆様楽しんでいただき、多くの情報を持ち帰っていただける有意義な大会になるように準備を進めてまいります。

どうか宜しく願いいたします。

日本発育発達学会第9回大会
大会長 鳥居 俊
早稲田大学スポーツ科学学術院

日本発育発達学会第9回大会 運営委員会

大会長 鳥居 俊 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

大会副会長 広瀬 統一 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

委員 池田 裕恵 (東洋英和女学院大学人間科学部)

委員 内田 直 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

委員 館 俊樹 (静岡産業大学経営学部)

委員 藤井 勝紀 (愛知工業大学経営学部)

委員 矢内 利政 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

委員 渡邊 裕之 (北里大学医療衛生学部)

委員 ○飯田悠佳子 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

委員 ○勝亦 陽一 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

委員 ○杉崎 範英 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

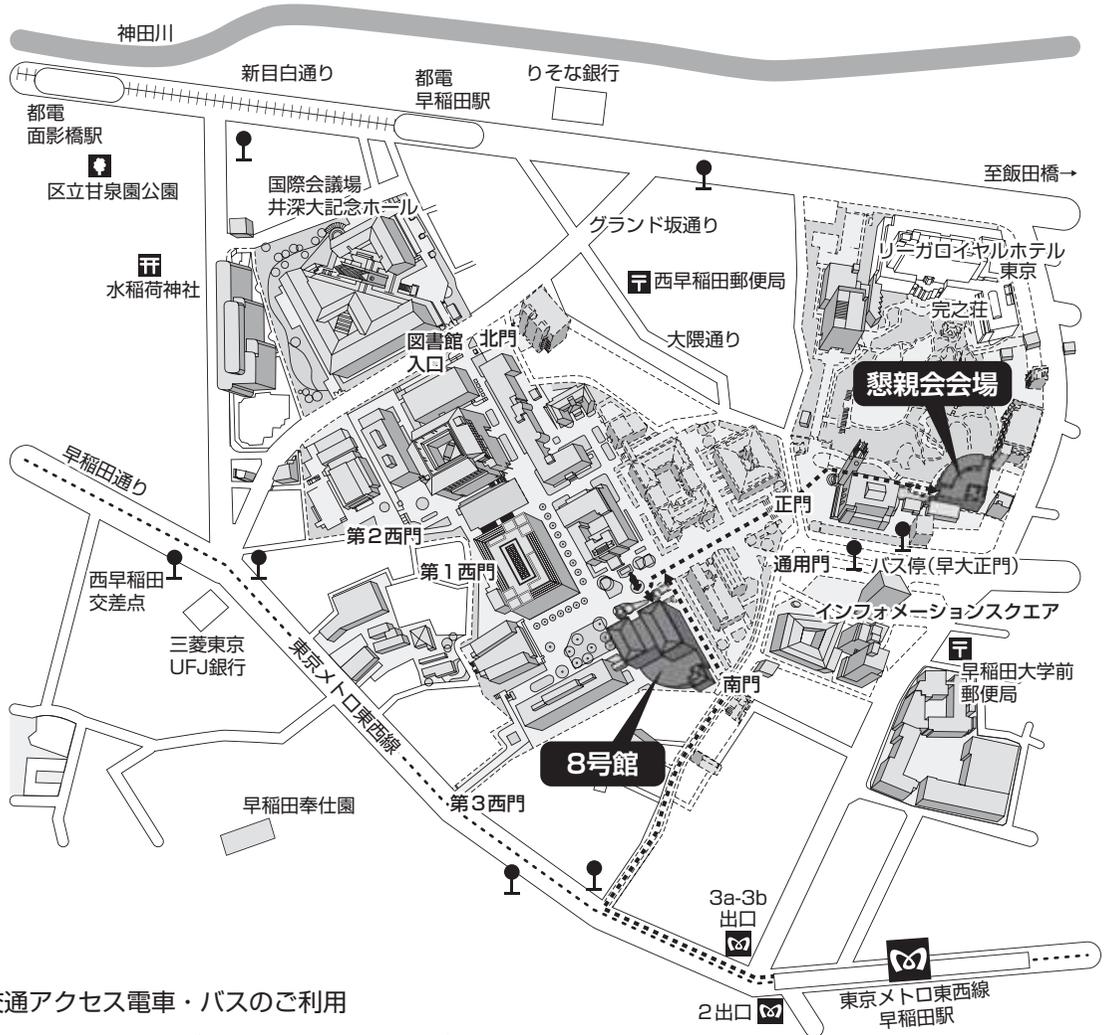
委員 ○永野 康治 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

委員 ○村田 祐樹 (早稲田大学スポーツ科学研究科)

○印は大会事務局
五十音順

交通のご案内

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 8号館



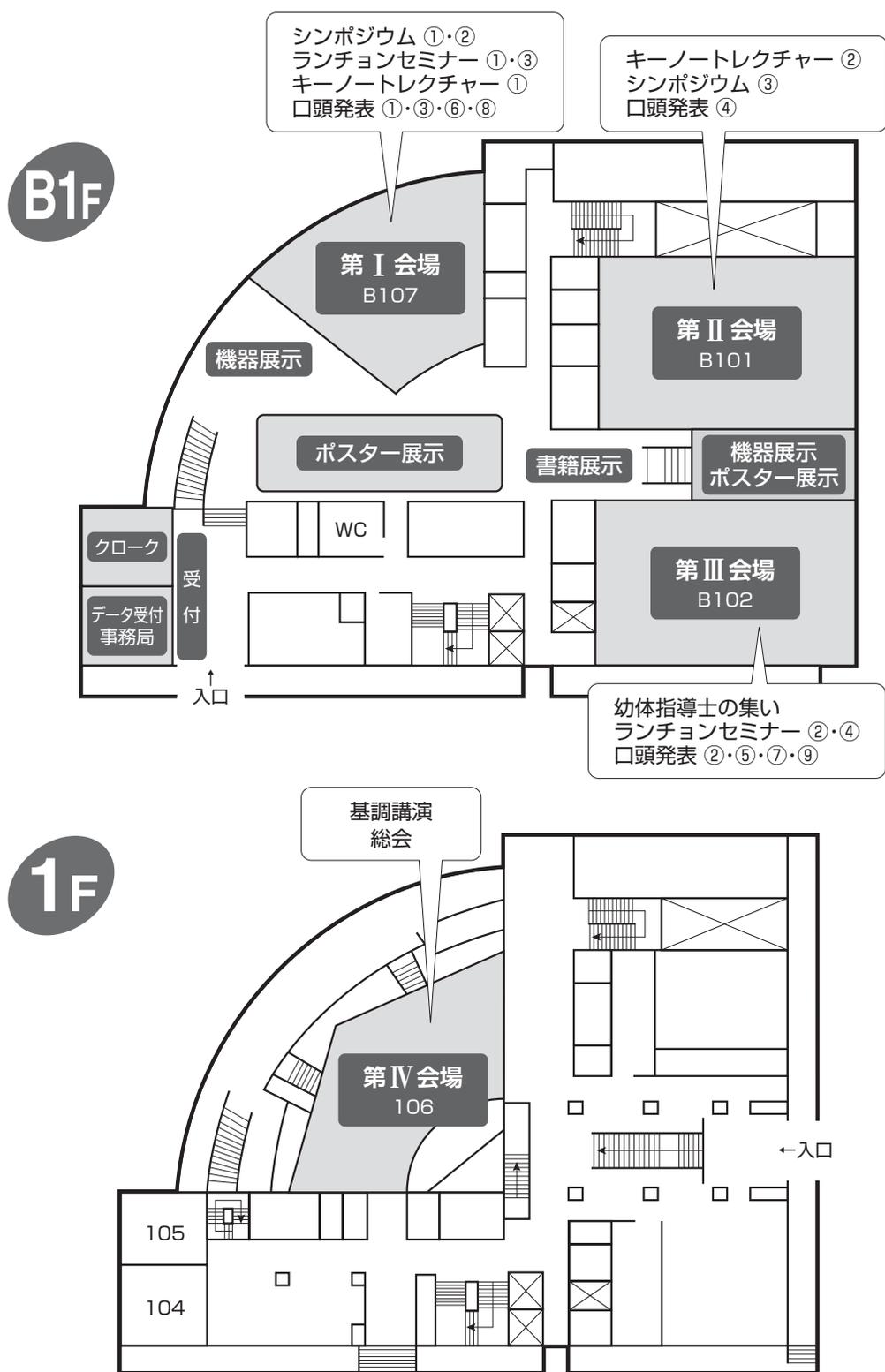
交通アクセス電車・バスのご利用

- JR 山手線 (高田馬場駅 徒歩 20分)
- 西武線 (高田馬場駅 徒歩 20分)
- 地下鉄東京メトロ (東西線 早稲田駅 徒歩 5分)
(副都心線 西早稲田駅 徒歩 17分)
- 都電 (三ノ輪橋駅 - 早稲田駅 徒歩 5分)
- バス (高田馬場駅 - 早大正門)
(新宿駅西口 - 早稲田)
(渋谷駅 - 早大正門)
(上野広小路 - 早稲田)

車のご利用

大学に駐車場はございませんので、公共の交通機関をご利用ください。

会場案内図



1日目 3月12日(土) 早稲田大学早稲田キャンパス 8号館

	第Ⅰ会場 B107	第Ⅱ会場 B101	第Ⅲ会場 B102	第Ⅳ会場 106	展示会場 B1ロビー
9:00			9:00～ 受付開始 (B105前)		
9:40～9:50	開会の辞				
9:50～11:40	シンポジウム ① 子どもの身体の時代的 変化と生活環境—日韓に おけるそれぞれの背景— 座長：藤井 勝紀 愛知工業大学 シンポジスト： 三島 隆章 八戸大学 廬 昊成 KyungHee Univ. 朴 兌渉 明知大学校 小澤 治夫 東海大学		9:50～11:20 幼少年体育指導士の 集い 文部科学省が考える 幼児の体力向上施策 情報提供者： 小林 寛道 東京大学		
11:00				指導実践報告と意見交換会 司会： 石沢 順子 東京純心女子大学 話題提供者： 川尻 彰 NPO法人健康づくりフォーラム 梅原 正美 にこにご保育園 安藤 由香 海老名市立門沢橋保育園 助言者： 小林 寛道 東京大学	
12:00	12:00～13:00 ランチョンセミナー ① トップアスリートの育成 —サッカーの取り組み— 座長：広瀬 統一 早稲田大学 演者：布 啓一郎 日本サッカー協会		12:00～13:00 ランチョンセミナー ② 子どもの体力向上のた めの方策 —体育科教育学の立場 から— 座長：小澤 治夫 東海大学 演者：吉永 武史 早稲田大学		
13:00				13:20～14:20 基調講演 アクティブ・ライフ による子どもの 育成 演者： 鳥居 俊 早稲田大学 広瀬 統一 早稲田大学	
14:00					～14:30 ポスター 掲示期限
14:30～15:30	口頭発表 ① 01-1～01-5 座長：鳥居 俊 早稲田大学		14:30～15:30 口頭発表 ② 02-1～02-5 座長：岡 浩一朗 早稲田大学		
15:00					
16:00					15:40 ～ 17:40 ポ ス タ ー 発 表
17:00					

17:20～18:20 **理事会** 場所：105
18:30～20:30 **懇親会** 場所：大隈ガーデンハウス

	第Ⅰ会場 B107	第Ⅱ会場 B101	第Ⅲ会場 B102	第Ⅳ会場 106	展示会場 B1ロビー
8:00			8:00～ 受付開始 (場所: B105前)	8:20～8:50 総会	
9:00	9:00～10:00 口頭発表 ③ 03-1～03-5 座長: 春日 晃章 岐阜大学	9:00～10:00 口頭発表 ④ 04-1～04-5 座長: 野井 真吾 埼玉大学	9:00～10:00 口頭発表 ⑤ 05-1～05-5 座長: 広瀬 統一 早稲田大学		
10:00	10:00～11:00 口頭発表 ⑥ 06-1～06-5 座長: 中村 和彦 山梨大学		10:00～11:00 口頭発表 ⑦ 07-1～07-5 座長: 小磯 透 国際武道大学		
11:00	11:20～12:20 キーノートレクチャー ① 発育の解析: 時系列解析 からグラフソフトによる 視覚的解析へ 座長: 藤井 勝紀 愛知工業大学 演者: 小林 正子 女子栄養大学	11:20～12:20 キーノートレクチャー ② 走運動の発達 座長: 小林 寛道 東京大学 演者: 加藤 謙一 宇都宮大学			
12:00	12:40～13:40 ランチョンセミナー ③ 思春期の睡眠と メンタルヘルス 座長: 内田 直 早稲田大学 演者: 兼板 佳孝 日本大学		12:40～13:40 ランチョンセミナー ④ 成長痛と骨軟骨の スポーツ障害 座長: 鳥居 俊 早稲田大学 演者: 柏口 新二 東京厚生年金病院		
13:00	13:50～15:20 シンポジウム ② IT普及社会における子 どもの体力低下抑止と 健全育成促進 ～早稲田大学グローバル COEの取り組み～ 座長: 矢内 利政 早稲田大学 シンポジスト: 石井 香織 早稲田大学 森 裕之 早稲田大学 中田 大貴 早稲田大学 青山 友子 早稲田大学	13:50～15:40 シンポジウム ③ 子どもの体力問題 のモンダイ -必要と欲求の二元 論の超克に向けて- 座長: 鈴木 和弘 国際武道大学 シンポジスト: 森丘 保典 日本体育協会 佐々木 玲子 慶応義塾大学 竹中 晃二 早稲田大学			
14:00					
15:00	15:50～16:50 口頭発表 ⑧ 08-1～08-5 座長: 加藤 謙一 宇都宮大学		15:50～16:50 口頭発表 ⑨ 09-1～09-5 座長: 石垣 享 愛知県立芸術大学		
16:00					～17:00 ポスター 撤収期限
17:00					

学会参加者へのお知らせ

1 参加受付

受付は1月12日午前9時00分、13日午前8時00分より早稲田大学早稲田キャンパス8号館B1F入口にて開始致します。

2 参加費

正会員：7,000円(当日8,000円)

非会員：8,000円(当日9,000円)

学 生：4,000円(当日5,000円)

ご来場の方は、参加受付にて登録用紙に所属・氏名等をご記入の上、受付にご提出ください。当日参加申し込みの方は、登録用紙と共に参加費をお支払いください。引き換えに参加証(ネームカード)をお渡し致しますので、所属・氏名をご記入の上、ご着用ください。また、ネームホルダーは100円のデポジット制でお渡しいたします。大会終了後、ネームホルダーを返却いただければ、デポジットを返金いたします。

3 クローク

早稲田大学早稲田キャンパス8号館入口付近にクロークを設置致します。ご利用ください。なお、貴重品のお預けはご遠慮ください。

4 昼 食

ランチョンセミナーをご利用ください。

5 懇親会

日 時：3月12日(土) 18:30開始

会 場：早稲田大学早稲田キャンパス25号館(大隈ガーデンハウス)

会 費：3,000円

当日参加申し込みの方は、受付にて会費をお支払いください。

6 問い合わせ先

日本発育発達学会第9回大会事務局

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

早稲田大学スポーツ科学学術院 鳥居俊研究室

Tel&Fax：04-2947-6746

E-mail：hatsuhatsu9th@gmail.com

HP：http://hatsuiku.gakkai-web.jp/

ご発表の先生方へ

一般口頭発表について

1 発表時間

一般演題の発表時間は、発表8分、質疑4分の計12分です。
次演者は前演者が登壇されましたら、次演者席で待機してください。

2 発表形式

PCによるプレゼンテーション発表のみとさせていただきます。
発表に際しては、演題上のモニターを確認しながら、マウス、キーボードを操作し、画面を進めてください。

3 発表データ受付

発表データは記録メディア（USBフラッシュメモリ、CD-R等）に保存の上、PC受付に発表が行われるセッションの1時間前までにお持ちください。
PC受付にて発表データの確認を行い、データをお預けください。
パソコンの持ち込みは行えません。
発表データはセッション終了後、事務局が責任を持って破棄いたします。

4 発表データ作成について

発表データのファイル名は「演題番号_筆頭演者名」とし、保存してください。
事務局がご用意するPCのOSとアプリケーションは以下の通りです。
OS：Windows XP Professional SP3
アプリケーション：PowerPoint 2007
動画アプリケーション：Windows Media Player 10
他OS、アプリケーションにて作成したデータも動作可能な場合がございますが、動作の保証はいたしませんので、事前に上記環境で試写した上でデータをお持ちください。
文字化けを防ぐために、フォントはOS標準フォントをご使用ください。

ポスター発表について

1 発表時間

ポスターセッションでは、定められた発表時間の間、ポスター発表者用のリボンを受け取って胸につけ、ポスター前にお立ちいただき、質問等にお答え下さい。発表時間は下記となります。

ポスター番号(P-〇〇)が奇数：15:40～16:40

偶数：16:40～17:40

(発表時間が守られているかを事務局が確認いたします。)

2 ポスター掲示、撤去について

ポスターはポスター会場に3月12日15:00までにご掲示ください。掲示のない場合、発表を取り消すことがあります。

発表後、3月13日17:00までに撤去してください。引き取りのないポスターは事務局で処分いたします。

3 ポスター作成について

ポスターは縦120cm、横90cm以内のサイズで作成してください。演題番号は事務局にて用意いたしますが、演題名、所属、演者名はご自身でご用意ください。押しピンは各自でご用意ください。

座長の先生方へ

1 担当セッションの10分前までにご来場いただき、各会場進行係にお申し出の上、次座長席にご着席ください。

2 進行は時間厳守でお願いいたします。

プログラム

開会の辞 12日 9:40～9:50

第1会場(B107)

鳥居 俊 早稲田大学スポーツ科学学術院

基調講演 12日 13:20～14:20

第4会場(106)

[アクティヴ・ライフによる子どもの育成]

— 医学的観点から —

鳥居 俊 早稲田大学スポーツ科学学術院

— フィジカルコーチの観点から —

広瀬 統一 早稲田大学スポーツ科学学術院

キーノートレクチャー1 13日 11:20～12:20

第1会場(B107)

座長：愛知工業大学経営学部 藤井 勝紀

発育の解析：時系列解析からグラフソフトによる視覚的解析へ

小林 正子 女子栄養大学保健栄養学科

キーノートレクチャー2 13日 11:20～12:20

第2会場(B101)

座長：東京大学名誉教授 小林 寛道

走運動の発達

加藤 謙一 宇都宮大学教育学部

ランチョンセミナー1 12日 12:00～13:00

第1会場(B107)

座長：早稲田大学スポーツ科学学術院 広瀬 統一

トップアスリートの育成 — サッカーの取り組み —

布 啓一郎 財団法人日本サッカー協会

ランチョンセミナー2 12日 12:00～13:00

第3会場(B102)

座長：東海大学体育学部 小澤 治夫

子どもの体力向上のための方策 — 体育科教育学の立場から —

吉永 武史 早稲田大学スポーツ科学学術院

ランチョンセミナー3 13日 12:40～13:40

第1会場(B107)

座長：早稲田大学スポーツ科学学術院 内田 直

思春期の睡眠とメンタルヘルス

兼板 佳孝 日本大学医学部

ランチョンセミナー4 13日 12:40～13:40

第3会場(B102)

座長：早稲田大学スポーツ科学学術院 鳥居 俊

成長痛と骨軟骨のスポーツ障害

柏口 新二 東京厚生年金病院スポーツ・健康医学実践センター

シンポジウム1 12日 9:50～11:40

第1会場(B107)

座長：愛知工業大学経営学部 藤井 勝紀

[子どもの身体の時代的变化と生活環境 — 日韓におけるそれぞれの背景 —]

S1-1 日本の幼児の体力・運動能力の時代的变化と生活環境の変化との関連性について

三島 隆章 八戸大学人間健康学部

S1-2 Prevalence of Obese children and adolescents during weight reduction program in Korea

廬 昊成 (Nho Hosung) KyungHee University

S1-3 幼児期の身体活動経験と児童期の身体的発育発達との関連性について

朴 兌渉 (Park Tae-seop) 明知大学校

S1-4 日本の子どもの生活習慣と健康・体力・学力における現状と課題

小澤 治夫 東海大学体育学部

抄 録

基調講演

キーノートレクチャー

ランチョンセミナー

シンポジウム

アクティヴ・ライフによる子どもの育成

— 医学的観点から —

鳥居 俊

早稲田大学スポーツ科学学術院

— フィジカルコーチの観点から —

広瀬 統一

早稲田大学スポーツ科学学術院

子どもたちの体力低下の問題はもはや私たちの耳を驚かさな話題になってしまった感がありますが、小児生活習慣病の増加、学校での骨折の増加なども含めて、子どもたちの心身の問題は今なお解決されているわけではありません。これらの問題は主要先進国に共通の問題であり、問題の原因もほぼ共通で、おそらく子どもたちの生活環境や生活習慣の変化による身体活動の減少であると考えられています。従って、解決には身体活動を増加させることが必要であり、国内・海外でさまざまな取り組みがなされています。

本講演では、少子高齢社会である現代の子どもたちの健康問題を整理し、これらに対する施策が必要な理由、実際の取り組みに関して鳥居より話をさせていただきます。

子どもたちの体力低下が叫ばれて久しい一方で、専門競技開始年齢の低年齢化とともに若年層のトップアスリートが数多く活躍しています。このようなジュニア年代からの一貫指導を通した選手育成は、国際競技力向上という観点から世界的にも重要視されています。一貫指導環境においてトップアスリートが育つためには、タレントの「探索、識別、選抜、発達」の4つのキーステージがあり、本邦ではタレント発掘として広く行われています。しかしながら成長期には成熟度の個人差や、各種機能が未発達であることなどから、将来を見据えたタレント、すなわち資質を見いだすことは非常に困難です。そのため、指導者である大人がこの時期の選手評価を見誤ると、子どもたちの将来性を失うなど多くの弊害を産み出してしまいます。「サッカー」と「成熟度」というキーワードを切り口にして、成長期のタレント発掘の課題について分析するとともに、トップレベルのユースサッカー選手のフィジカルトレーニングの実際についても広瀬より紹介します。

発育の解析：時系列解析からグラフソフトによる視覚的解析へ

小林 正子

女子栄養大学保健栄養学科 発育健康学研究室

経済や気候変動などの解析に用いられる時系列解析を発育研究に取り入れたのは故東郷正美東大名誉教授であるが、時間と共に変動する発育という現象を解析する手段としては画期的な方法であった。時系列解析することにより、測定値のなかに隠れていた傾向(トレンド)成分、季節成分(周期変動成分)、不規則変動成分の各成分が分離され、さらにプログラムによっては身体のフィードバック機構と考えられる自己回帰過程を分離することもできる。

こうした時系列解析は発育研究に非常に有用であるが、子どもたちの健康にどのように役立てるかという現場への還元については難しいものがあった。しかし、データ間の差(差分)には不規則変動が含まれ、不規則変動と心身の健康状態との関連性も明らかになってきたことから、差分すなわちトレンドからのズレをみることで心身の大方の健康状態が推察できるようになった。従来の研究で「余分なもの」とされてきた不規則変動にこそ、健康状態が反映されていたのである。そこで、個人の発育を発育基準曲線上にプロットすることで健康に発育していることの確認や異常の早期発見が可能となる。現在では、身体計測値を簡単に発育基準曲線上にグラフとして表すことのできる「発育グラフソフト」を作成し、全国の小中高等学校や保育園に無償配布して、子どもたちの健康管理に活用いただいている。

時系列解析から始まり「発育グラフソフト」による目で見える発育と健康状態の把握に至るまでについて、また、発育グラフの見方について紹介したい。

抄 録

口頭発表

01-1

接地足跡画像写真からみた幼児の足の発達

○加城貴美子(新潟県立看護大学)

キーワード: 接地足跡、幼児、土踏まず形成

本研究は、発育期にある幼児を対象に、接地足跡画像写真から足の発育をみることを目的とした。対象は、長野県、静岡県と愛媛県の幼稚園と保育園の5園に在園する1,023名であった。測定は、身長、体重と足長・足幅であった。接地足跡はピドスコープ上に自由な立位姿勢での写真撮影をした。測定と同時に足に関する質問紙調査を行った。分析は、平澤の形態学的分析、土踏まず形成は独自に考案した分析と α 角度の2側縁から行った。幼児の年齢と身長で接地足跡画像写真分析とを比較検討した。身長と左足長は高い相関関係であった。接地足跡面と接地していない部分比は、身長が低い、体重が軽い程その比率は高かった。土踏まず形成は3歳から始まり5歳でほぼ完成する。身長層と左右の足の α 角度に有意差がみられ、身長が高くなるにつれて α 角度も大きかった。

01-2

成長期ユースサッカー選手の 内・外側縦アーチの横断的变化

○藤田基弘(早稲田大学スポーツ科学研究科)
広瀬統一(早稲田大学スポーツ科学学術院)

キーワード: アーチ高率、成長期、発達、横倉法

【目的】 様々なスポーツにおいて下肢のスポーツ障害が好発し、発症要因の一つとして足部縦アーチの低下が知られている。アーチの発達が未熟な成長期サッカー選手においては障害発生のリスクが大きいことが推察されるが、成長期アスリートのアーチの発達に関する国内の研究は少ない。そこで本研究では成長期サッカー選手におけるアーチ高率の変化を横断的に検討した。

【方法】 某Jリーグアカデミーに所属する成長期男子サッカー選手230人(平均年齢12.8歳)を対象に矢状面より撮影した足部レントゲンから、内側(横倉法)、外側(橋本雅至ら)アーチ高率を算出し横断的变化を検討した。

【結果】 各年代の平均と標準偏差は年代ごとによる差はみられなかった。しかし、最大値と最小値からアーチ高率の変化をみると、小学校5年生頃から個人差が顕著になる傾向が得られた。

【考察】 成長期におけるアーチ高には個人差が大きいため、チーム単位で練習を行う際に障害に対する注意が特に必要となることが推察される。また、特別アーチが低い選手に対して、障害発症との関連を詳細に検討し、トレーニング等のサポートをすることで障害を予防可能であると考えられる。

01-3

児童の踵骨骨量と生活習慣との関連性

- 大谷紗代(早稲田大学スポーツ科学部)
飯田悠佳子(早稲田大学スポーツ科学学術院)
青山友子、小野寛子(早稲田大学スポーツ科学研究科)
矢内利政、鳥居俊(早稲田大学スポーツ科学学術院)

キーワード：骨密度、発育、運動、栄養

児童を対象に超音波骨量計測および生活習慣・食事調査を実施し、生活習慣各因子と踵骨骨量との関連性を包括的に検討した。対象は、埼玉県内2つの小学校に在学する5、6年生の男女児童286名であった。超音波踵骨測定装置 A-1000 (GE 社製) を用い右踵骨の超音波伝搬速度 (Speed Of Sound : SOS) を計測した。生活習慣は、独自に作成したアンケートを用い調査し、週あたりの運動時間および、睡眠時間を求めた。食習慣は、簡易型自記式食事歴法質問票を用いて調査し、各栄養素の推定摂取量および食事得点 (食事バランスガイドにおける料理区分別の摂取目安より算出) を求めた。その結果、5年生の男女において SOS と運動時間との間に正の相関がみられた ($p < .05$)。SOS と睡眠時間、カルシウム摂取量、リン / カルシウム摂取量比、食事得点との間には有意な関連性はみられなかった。本研究より、小学校高学年児童においては、生活習慣各因子の中で、運動時間が踵骨骨量に影響を与えていることが示唆された。

01-4

幼児期の男児の浮き趾と片脚バランス能力の関係

- 松田繁樹(岐阜聖徳学園大学)
出村慎一(金沢大学)、春日晃章(岐阜大学)

キーワード：幼児、男児、浮き趾、バランス能力

浮き趾に関連する要因は様々あることが指摘されているが、浮き趾と片脚バランス能力の関係は実証されていない。本研究の目的は、5歳から6歳までの男児97名を対象に、浮き趾と片脚バランス能力の関係を明らかにすることであった。裸足で直立姿勢を保持した幼児の接地足蹠面をピドスコープにより一人5回撮影した。開眼片脚立ちテスト(後述)において各幼児が利用した支持脚の足趾を浮き趾の分析対象とした。撮影した5画像のうち4画像以上において接地していない趾を浮き趾とした。片脚バランス能力は開眼片脚立ちテストにより評価した。測定は一人2回行い、2試行のうち優れた試行の値を代表値として解析に利用した。浮き趾の有無による片脚立ち時間に差はなく、また浮き趾本数による片脚立ち時間に差はなかった。片脚立ち時間の上位25%(上位群)と下位25%(下位群)に被験者を分け、両群と浮き趾者の割合の関係を検討したが、有意な関係は認められなかった。また、両群間に浮き趾本数の差も認められなかった。結論として、男児の浮き趾と片脚バランス能力の間に関係はほとんどないことが明らかにされた。

日本発育発達学会会則

第1章 総 則

第1条 本会を日本発育発達学会と称する（英文名：Japan Society of Human Growth and Development）。

第2条 本会は、発育・発達、健康、運動に関する科学的研究並びにその連絡協同を促進し、この分野の研究の発展をはかり、さらに実践に資することを目的とする。

第2章 事 業

第3条 本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学会大会、学術講演会、研修会の開催。
- (2) 日本体育学会の発育発達専門分科会としての事業。
- (3) 学会誌「発育発達研究」（英文名：Japan Journal of Human Growth and Development Research）及び会員名簿の刊行。
- (4) 会員の研究に資する情報の収集と紹介。
- (5) その他本会の目的に資する事業。

第4条 学会大会は、毎年1回以上開催する。

第3章 会 員

第5条 会員の種別は次の通りとする。

- (1) 正会員：発育発達学あるいはこれに関連する諸科学の研究者および本会の目的に賛同する個人。
- (2) 名誉会員：本会に貢献のあった個人で、理事会が推薦し、総会で承認されたもの。
- (3) 賛助会員：本会の目的に賛同する個人あるいは団体で、理事会の承認を受けたもの。
- (4) 購読会員：学会誌「発育発達研究」を購読する。

第6条 会員は会費を納入しなければならない。

- (1) 正会員：年額 8,000円
- (2) 名誉会員：徴収しない。
- (3) 賛助会員：年額1口(2万円)以上。
- (4) 購読会員：学会誌「発育発達研究」の購入相当額。

第7条 本会に入会を希望するものは、所定の手続きを経て、入会申込書、会費を添えて本会事務局に申し込むものとする。

第8条 会員は、本会の学会誌「発育発達研究」その他研究情報に関する刊行物の配布を受けることができる。

第9条 原則として2年間会費を滞納したものは退会したものとみなす。

第4章 役 員

第10条 本会に次の役員をおく。

会 長 1名
理事長 1名
理 事 若干名
監 事 2名

第11条 役員は次の各項により選任される。

- (1) 会長は理事会が推薦し、総会において決定する。
- (2) 理事長は理事の互選により選出する。
- (3) 理事は会員の5名連記の投票により決定する。
- (4) 理事のうち2名は会長が委嘱することができる。
- (5) 監事は会長が委嘱する。

第12条 役員の職務は次の通りとする。

- (1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 理事長は理事会を招集し、会務を統括する。
- (3) 理事は理事会を構成し、会務を処理して本会運営の責にあたる。
- (4) 監事は本会の会務を監査する。

第13条 役員任期は次の通りである。

- (1) 会長・理事長・理事・監事は1期3年とし、再任を妨げない。

第5章 顧 問

第14条 本会に顧問をおくことができる。

第6章 会 議

第15条 総会は本会の最高議決機関であり、次の事項を審議決定する。

- (1) 事業報告及び収支決算
- (2) 事業計画及び収支予算
- (3) 会則の改正
- (4) その他の重要事項

第7章 会 計

第16条 本会の経費は次の収入によって支出する。

- (1) 会員の会費
- (2) 事業収入
- (3) 他よりの助成金及び寄付金

第17条 本会の会計年度は毎年4月より翌年3月までとする。

第8章 付 則

第18条 本会の事務局は当分の間、大妻女子大学人間生活文化研究所に置く。

第19条 本会則は平成17年3月27日より施行する。

日本発育発達学会 役員一覧

〈会 長〉 小林 寛道 (東京大学)

〈理事長〉 大澤 清二 (大妻女子大学)

〈理 事〉 穂丸 武臣 (名古屋短期大学)

跡見 順子 (東京大学)

池田 裕恵 (東洋英和女学院大学)

小澤 治夫 (東海大学)

春日 晃章 (岐阜大学)

北川 薫 (中京大学)

小磯 透 (国際武道大学)

國土 将平 (神戸大学)

鈴木 和弘 (国際武道大学)

鳥居 俊 (早稲田大学)

中村 和彦 (山梨大学)

藤井 勝紀 (愛知工業大学)

宮丸 凱史 (十文字学園女子大学)

〈監 事〉 中西 純 (国際武道大学)

中野 貴博 (名古屋学院大学)

協賛企業一覧(五十音順)

【機器展示協賛企業】

株式会社杏林書院
株式会社フォーアシスト
株式会社丸紅フットウェア
有限会社ラウンドフラット

【広告協賛企業】

株式会社杏林書院
株式会社日本メディックス
株式会社ベースボール・マガジン社
株式会社丸紅フットウェア
笹川スポーツ財団
ミズノ株式会社
日本シグマックス株式会社
有限会社トライワークス
有限会社ナップ

(平成23年1月末日現在)

日本発育発達学会第9回大会 抄録集

発行日：2011年(平成23年)2月10日

発行者：日本発育発達学会第9回大会
大会長 鳥居 俊

事務局：日本発育発達学会第9回大会事務局
〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15
早稲田大学スポーツ科学学術院

制作： 学術集会専門出版社
株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793
<http://www.secand.jp/>